
空腹と電話。

一柳 紘哉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空腹と電話。

【ZPDF】

Z0875A

【作者名】

一柳 紘哉

【あらすじ】

僕はただ普通に暮らしたい。人が望んでいる小さな幸せさえあればそれでいい。だからこんな電話は全くもって迷惑。しかも、昼食を作っている時なんてタイミングも悪い。もつ少しタイミングさえよければその話乗ったかもね。

僕は毎飯に簡単に食べられるツナサンドを作っている。
ちゅうびっナをマヨネーズで和えようと思つていたら、電話がなつた。

「もしもし。覚えてる?私よ。」

綺麗な女の声だ。

僕は人の声を覚えるのは病的に得意としていたけど、まったく聞き覚えがない声でそう言われた。

「悪いけど、まるで君の声に聞き覚えはない」

正直に答えた。

「そう。まあいいわ。あなたが私を知らないで私はあなたを知っているもの。

それで十分じゃない?」

確かにのある意味ではそれは十分である。

しかし、僕の立場ならば、それはとても不十分である。
諦めて。

「まあいい。それで君の用件はなんだい?」
ボールでツナをマヨネーズで和えながら聞く。
隠し味に七味を入れる。

「あなたは本当に環境適応能力が高いわね。いいわ。用件を話します。

あなた、私に入れ替わるきないかしら?」

理解できずに聞き返す

「どういう意味?」

「言葉どりつの意味よ」

間髪入れずに答えてくる。

僕は微塵切りにした玉葱をツナの入ったボールの中に入れた。

「君の言つとうりだとすると、君が僕になつて、僕が君になるつてことだろ。

そんなことは物理的に不可能だ。

できて生活を入れ替えるぐらいいなものだらう。」

僕はボールの中にある食材達を一つにまとめた。

「それが可能なのよ」

食パンの耳を切り落とす。

「どうして僕なんだい？」

他にも沢山入なんているだろ。」

食パンにバターを塗り、ツナベースの具をパンに塗る。

「理由をあげたらきりがないくらいあるわよ。

全部聞きたい？」

「聞きたくない」

興味があつたが、そう言って、電話を切つた。

食パンを重ねて、綺麗に二角に、四等分にした。

また電話がリンリン僕を呼んでるけど、もうでたくなくなつた。
なぜなら、サンドイッチが美味しいから。

いつか、僕が暇なときなら電話にでるよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0875a/>

空腹と電話。

2011年1月31日11時14分発行